



- ▶ 研修医数 1年目 40名、2年目 41名
- ▶ 昨年度マッチング受験者数 91名
- ▶ 研修医の主な出身大学

埼玉医科大学、旭川医科大学、杏林大学、岩手医科大学、金沢医科大学、慶應義塾大学、山形大学、千葉大学、帝京大学、東海大学、東京大学、東北大学、獨協医科大学

## ■ 病院の概要

NPO法人卒後臨床研修評価機構(JCEP)による認定 / 無



### ■ 診療科

血液内科、リウマチ膠原病科、呼吸器内科、消化器内科・肝臓内科、内分泌内科・糖尿病内科、脳神経内科・脳卒中内科、腎臓内科、総合診療内科、感染症科・感染制御科、消化器一般外科、乳腺腫瘍科、小児外科、麻酔科、小児科、新生児科、産科・婦人科、整形外科・脊椎外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科、脳神経外科、形成外科・美容外科、泌尿器科、リハビリテーション科、神経精神科・心療内科、放射線科、放射線腫瘍科、核医学診療科、中央病理診断部、輸血・細胞移植部、予防医学センター、東洋医学科、歯科・口腔外科、救急科、消化器内科、緩和医療科、ゲム医療科、血管外科、核医学診療科、病院診療部

### ■ 主な認定施設

特定機能病院、日本医療機能評価機構認定病院、肝疾患診療連携拠点病院、エイズ診療拠点病院、災害拠点病院、埼玉県アレルギー疾患医療拠点病院 他

## 研修プログラムの特色

3病院自由選択プログラムは、ローテーションする診療科を選択する際、自由度が高く、研修医の希望を最大限に取り入れることが出来る当院で最も人気のあるプログラムで、それぞれ特色を持つ3つの大学病院（総ベッド数 2,500 床）の診療科で自由に研修を行うことができる、オーダーメイドプログラムです。研究マインド育成自由選択プログラムは、3病院自由選択プログラムと臨床研修内容は同じですが、研修を行うと同時に大学院に入学し、大学院生としての講義、研究を行う充実したプログラムです。総合医育成広域連携病院自由選択プログラムは、総合医を目指す研修医に適したプログラムです。バランスよく診療科を経験でき、プライマリケア医としての対応能力に優れた総合医の育成を目指します。周産期・成育医療専門医自由選択プログラムは、将来周産期医療・成育医療を専攻する希望のある研修医を対象に、自由選択期間を最大限に活用した特別プログラムです。将来の専門医取得にも有利な、より専門的指導を行います。外科系プログラムは、外科専門医取得に重点をおき消化器外科は必須として心臓外科、呼吸器外科、乳腺外科、小児外科での研修を選択できるプログラムです。今後の専門医に向けた後期研修にスムーズに移行できるプログラムを目指しています。

プログラム例 埼玉医科大学3病院自由選択プログラム(総合コース) / 募集定員: 38名

	1-4週	5-8週	9-12週	13-16週	17-20週	21-24週	25-28週	29-32週	33-36週	37-40週	41-44週	45-48週	49-52週
1年目	導入研修(4週)			内科(24週)				救急(12週)		外科(4週)	小児科(4週)	産婦人科(4週)	
2年目	精神科(4週)	地域医療(4週)					自由選択(44週)						

必修研修として内科 24 週、救急部門 12 週（4 週を麻酔科へ変更可）、外科、産婦人科、小児科、精神科各々 4 週、2 年目で地域医療研修 4 週、それ以外の 44 週は自由選択研修。研修開始 4 週（導入研修）および研修最終の 4 週は埼玉医科大学病院にて研修とする。その他 埼玉医科大学研究マインド育成自由選択プログラム（定員 3 名）、埼玉医科大学総合医育成広域連携病院自由選択プログラム（定員 8 名）、埼玉医科大学周産期・成育医療専門医自由選択プログラム（定員 4 名）、埼玉医科大学病院外科系プログラム（定員 2 名）

### ■ 研修医の処遇

給与	36万円/月 (基本給25万円、諸手当、賞与含む平均月額給与)	勤務時間	原則8時30分～17時30分
賞与	前年度実績50万円/年	当直	あり(平均4回/月) (診療科により多少異なります)
諸手当	日・当直手当、時間外手当 住宅手当、通勤手当、扶養手当	休暇	9日/月、有給休暇(1年目:10日、2年目:11日)
保険	日本私立学校振興・共済事業団 雇用保険、労災保険 医師賠償保険(個人加入、義務)	宿舎	あり(月額2万円、補助あり)
		その他	白衣貸与(クリーニングは病院負担) 研修医個人専用の机・ロッカー 仮眠室・シャワールーム(男女別) 電子カルテ、共有PC(インターネット接続可能)

### ■ 主な臨床研修協力病院・協力施設

#### 【協力型臨床研修病院】

- 埼玉医科大学病院群
- 埼玉県立小児医療センター
- さいたま赤十字病院 他

#### 【臨床研修協力施設】

- 丸木記念福祉メディカルセンター
- 大川原脳神経外科病院 (北海道)
- 長崎県富江病院
- 新渡戸記念中野総合病院 (東京都)
- 鹿児島県南さつま市坊津病院
- たむら記念病院 (千葉県)
- 沖縄県立八重山病院 他

## ■ 当院の魅力

### 環境の整った施設でより良い研修を

埼玉医科大学病院は埼玉県の西部を中心とした地域の医療を担うと同時に、特定機能病院として埼玉県全域の医療も担当しています。埼玉県は東京都に隣接し人口も734万人を数え、多くの患者さんが来院されます。そのため、当院では大学病院ならではの専門性の高い疾患からプライマリケアまで、多くの疾患を経験できるという特徴があります。また、当院には専門医制度にマッチした診療科やアイセンター、てんかんセンター、難病外来等特徴のある診療科が充実しています。24時間管理人が常駐する研修医寮がリニューアルされるなど、研修医の為に施設も充実しています。豊かな自然と1時間で都内へ行けるアクセスの良さが、良い環境の中で研修することができます。埼玉医科大学3病院の連携の良さは皆さんに最高の研修を提供し、皆さんはこの3病院から自分の目的に合った診療科での研修に取り組むことができます。さらに熱心な指導医が多いのも自慢です。その他、埼玉県内最大級の規模を誇る埼玉医科大学シミュレーショントレーニングセンターを利用した多くのハンズオンセミナー等に参加することができるのも魅力の一つです。



## 女性医師支援

当院では、女性医師ひとりひとりのワークとライフを尊重し、短時間勤務で正規雇用と同等の処遇で働ける制度や院内保育園での延長保育、女性医師就業継続支援窓口を設けるなど働きやすい環境作りに取り組んできました。2022年から、女性研修医の皆さんが産婦人科を受診を希望した時、気軽に産婦人科を受診ができるようサポートが始まりました。低用量ピルによる月経困難症の治療や確実な避妊、HPVワクチンについての相談など、産婦人科を活用する事はプレコンセプションケアの一環として、未来の人生の選択肢を広げることにつながります。皆さんの選択肢を提供することで、埼玉医科大学は働く女性医師を応援しています。



## 病院見学、その他イベント・説明会等の情報

病院見学（随時受付）  
当院ホームページに掲載の見学申込書をダウンロードの上、必要事項を記入し、見学希望日3週間前までに臨床研修センター事務局へE-mail（添付）又は郵送でお申込みください。



## 連絡先

病院名 埼玉医科大学病院  
所属 臨床研修センター事務局  
住所 〒350-0495 埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷38番地  
TEL 049-276-1862(直通)  
FAX 049-276-2149

E-mail kenshui@saitama-med.ac.jp  
URL http://www.saitama-med.ac.jp/hospital/index.html  
アクセス JR八高線毛呂駅から徒歩3分・東武越生線東毛呂駅からバス5分

## 研修責任者からメッセージ

研修管理委員長  
山元 敏正

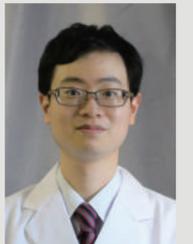


皆さん、是非、埼玉医科大学病院で初期研修を開始しましょう!!  
研修先として最適な当院の特徴を説明します。①スタッフ教育熱心: 高度なスキルを持ったスタッフが熱心に指導します。②豊富な症例: 臨床医としての実践的な知識と技量を身につけるには、受け持った症例から学ぶことが最も確実です。当院ではコモンな疾患から稀な疾患まで多種多様な疾患を経験できます。③ハイブリッド型の大学病院: 高度な医療を提供する大学病院とプライマリ・ケアを中心とする地域病院の機能を合わせ持ち、また基礎医学の先生方との共同研究も盛んに行われています。  
セキュリティー完備の研修室には研修医の皆さんに専用のデスク、ロッカー、当直室、シャワールーム等が完備されています。  
是非、一度、病院見学に来てください。お待ちしております。

## 先輩研修医の声

研修医

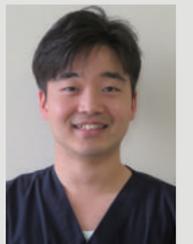
池澤 悟



私は埼玉医科大学病院の3病院自由選択プログラムで研修を行なっています。このプログラムでは、当院、国際医療センター、総合医療センターの各科を自分の進路希望等に合わせて自由に選択することができます。また、当院で研修していて感じたことは、教育が充実している、相談しやすい、温かみのある人が多い、などといったことです。  
もし興味があれば、是非見学にいらしていただき、当院の魅力を体感していただければと思います。

研修医

山縣 洸



研修医にとって一番大切なことは、将来進む科を含む全ての領域に少しでも多くかかわり、知識と経験を深めていくことだと思っています。  
当院は埼玉西部全域の医療を担い、多くの症例で急性期から慢性期までを診る「最後の砦」であるため、一般的な疾患から稀なものまで経験できる場だと感じています。  
また大学病院の特長である教育にも非常に力を入れています。まだ専攻が決まらない、興味がある科がいくつもある。その答えを見つける研修が、当院では必ず出来ると実感しています。

